

56 大切なものは目には見えない

今週は人権週間ということで、朝会の「わたしのいもうと」の読み聞かせから始まり、各ブロックごとの子ども人権会議、そして本日、一般社団法人「いのちを織る会」から美谷島 邦子様、渡橋和子様、布施田文子様をお招きして低学年向け、高学年向けでそれぞれ1校時単位、「大切なものは目には見えない」というご講演をしていただきました。美谷島様は1985年に起きた日航機墜落事故で当時小学校3年生のお子様を亡くされました。この経験から“命の大切さ”について様々なところでご講演されています。



今日は、お子様が遭われた事故のこと、その時その後のご家族のことご自身のこと、事故後につながった方々のことなどのエピソードを通して、自分の命、家族の命、自分の周りにある多くの命の大切さについてお話をいただきました。

低学年の子どもたちも、高学年の子どもたちも、実に真剣な態度とまなざしでお話に聞き入っていました。中にはお話の途中で涙をぬぐう子もいました。かねてから話をしている「本物に触れる」とはまさにこのことだと強く感じました。



お話が終わった後、子どもたちから多くの質問や感想が出されました。母としての思いやご家族の思いへの質問や命の尊さを感じ取ったこと、将来の夢と安全を絡めたもの、自分自身の経験を重ねたものなど、その質問や感想の質の高さにご講師の皆様も驚かれていました。

人権週間は今日で終わりとなりますが、これからも私たち教職員や子どもたちの人権感覚を高めていくよう、今回のこのご講演を聞いた経験が、釜利谷小学校の子どもたちの心に残り続けていくよう、取り組んでいきたいと思えます。